

あります。其の後何等詭計ある解答を得られず、遂に破りを雇入れ又資本家組合たる解業組合を動かして他現場の労働者を應援する事を決議せしめ又公然労働者の階級の共同の利益保護機關たる労働組合のブツブツを宣言するに至つた。

吾々は労働者として出来る丈固執な解決を欲して居つた、然るに彼等は自分等の非即ち労働者虐待の非を覺らずして返つて労働者をより以上の生活苦に突き入れんとして居るのである。

吾々は今や此の問題は單なる山甚のみの問題でなく斯くの如く堪へざる生活苦を労働者に強ひるものは山甚の如き非人間的請負者輩が小樽港内産業を掌握し以て四十何年來の封建的國習を盾にこれ程労働者を慘酷に取扱ひ來つたてであらふ、此の度の總罷業は直接的には山甚の問題を孤立より救ひ労働者の共同の利害を守らん爲め間接的には所謂四十何年來の此の封建的搾取制度を根柢より改革せんが爲めに此の處に遂に總罷業を斷行するに致つたものびあります。

○十四万市民諸君

人殺しがあつても濱の出面取、盜賊も出面取りと今迄此の屈恥を如何に闘ひ來つたであらふ、先には三斗八升事曲大眞田治助を葬つた吸血漢磯野をこらしめた、今我々に残されたる重大なる仕事は濱の現場制度を改革する事です濱の労働者の収入を多くする事はやがて市民諸君の購買力にも必ず影響するであります、又市民諸君も如何に多くの重税を負担し借家賃を支拂ふて居る事であらふ、しかも借家の大部分は濱に關係のある財閥が多いのであります。

今や全港内の産業機關が止まる、吾が小樽合同労働組合は此の暴虐搾取に飽迄も反対し全労働者の利益の爲めに闘はんことを願ひます。

○市民諸君

吾等の意のある所を深く御了解あつて御同情と御聲援を乞ふものであります。

昭和二年六月十九日

日本労働組合評議會

小樽合同労働組合

總罷業委員會